

Europe Indicators

発表日: 2023年5月25日(木)

欧州経済指標コメント: 4月英国消費者物価

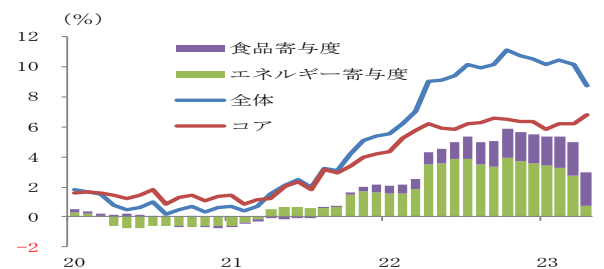
～やめられない、止まらない～

第一生命経済研究所 経済調査部

首席エコノミスト 田中 理 (Tel: 050-5474-7494)

- 24日に発表された4月の英国の消費者物価は前年比+8.7%と前月の同+10.1%から上昇率が大幅に鈍化。昨年10月に同+11.1%でピークアウトした後も前年比2桁台で高止まりが続いてきたが、エネルギー料金の上昇一服（前月：同+40.5%→今月：同+10.8%）を背景に、8ヶ月振りに前年比1桁台に上昇率が鈍化した。エネルギー料金は、原油価格に連動する自動車燃料が先行してピークアウトし、3月以降は前年比でマイナス圏に転落している。他方、主にガス価格に連動する住宅用燃料が、昨年10月以降、政府の料金凍結の影響で概ね横這い圏で推移してきたが、昨年4月に住宅用燃料の上昇が大幅に加速した反動、今月から前年比の上昇率が明確に鈍化した。エネルギー料金の凍結は6月まで延長されたが、自動車燃料の下落幅拡大から、向こう数ヶ月のエネルギー価格の前年比上昇率は一段と鈍化に向かうことが予想される。
- 目を引くのが、変動の大きいエネルギー、食料、アルコール飲料、たばこを除いたコア物価の上昇加速。昨年春先以降、前年比6%前後で高止まりが続いてきたが、前月：同+6.2%→今月：同+6.8%と上昇率が一気に加速した。今月の上昇加速を牽引したのは、上下水道料金（同+3.8%→同+8.4%）、通信費（同+3.7%→同+7.9%）、自動車購入費（同+0.6%→同+3.4%）。上下水道と通信費は資源価格高騰の影響が遅れて反映された料金引き上げ、自動車は新モデル投入などにも影響される。サービス価格も全般に上昇が加速、労働需給逼迫や物価高を反映した賃上げも続いており、コア物価の上振れは中期的な物価安定を脅かしかねない。今回の計数は6月の25bp利上げを確実なものとするに加え、その後の利上げ継続の可能性を高める。

■英国：消費者物価の推移（前年比）



注：コア物価は食料・たばこ・アルコール・エネルギーを除く
出所：英統計局資料より第一生命経済研究所が作成

■英国の消費者物価（%）

		2022				2023											
		2Q	3Q	4Q	1Q	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	
消費者物価	(前期比)	4.3	1.9	2.9	0.8	0.8	0.6	0.5	0.5	2.0	0.4	0.4	-0.6	1.1	0.8	1.2	
	(前年比)	9.2	10.0	10.7	10.2	9.4	10.1	9.9	10.1	11.1	10.7	10.5	10.1	10.4	10.1	8.7	
コア消費者物価	(前年比)	6.0	6.3	6.4	6.1	5.8	6.2	6.3	6.5	6.5	6.3	6.4	5.8	6.2	6.2	6.8	
食料品	(前年比)	8.3	13.4	16.5	18.0	9.8	12.6	13.1	14.5	16.2	16.4	16.8	16.7	18.0	19.1	19.0	
アルコール	(前年比)	1.3	2.9	3.8	5.8	1.2	2.8	2.9	2.8	4.0	4.1	3.5	5.8	5.7	5.9	7.0	
たばこ	(前年比)	8.2	8.2	5.3	4.9	8.3	8.1	8.1	8.3	8.3	4.0	3.9	4.5	5.7	4.7	11.0	
エネルギー	(前年比)	54.1	53.1	55.8	46.8	57.3	57.8	52.0	49.6	59.0	55.6	52.8	51.2	49.0	40.5	10.8	
住宅用燃料	(前年比)	69.9	70.1	89.2	87.9	70.2	70.3	69.7	70.1	89.7	89.0	88.7	89.5	88.6	85.6	24.3	
自動車燃料	(前年比)	35.6	34.1	16.8	1.9	42.3	43.7	32.1	26.5	22.2	17.2	11.5	7.7	4.6	-5.9	-8.9	

注：消費者物価の前期比は季節調整前。コア消費者物価は食料・アルコール・たばこ・エネルギーを除く。出所：英統計局

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。

